

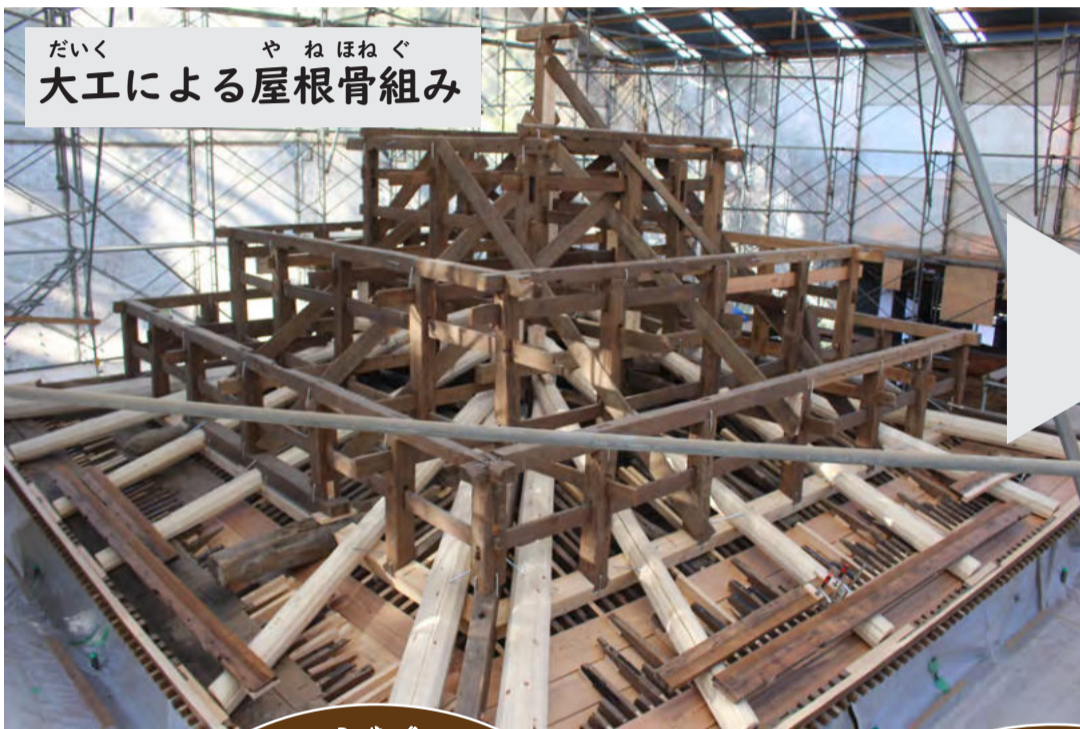
工事の げんば 現場より

今はこんな様子だよ。

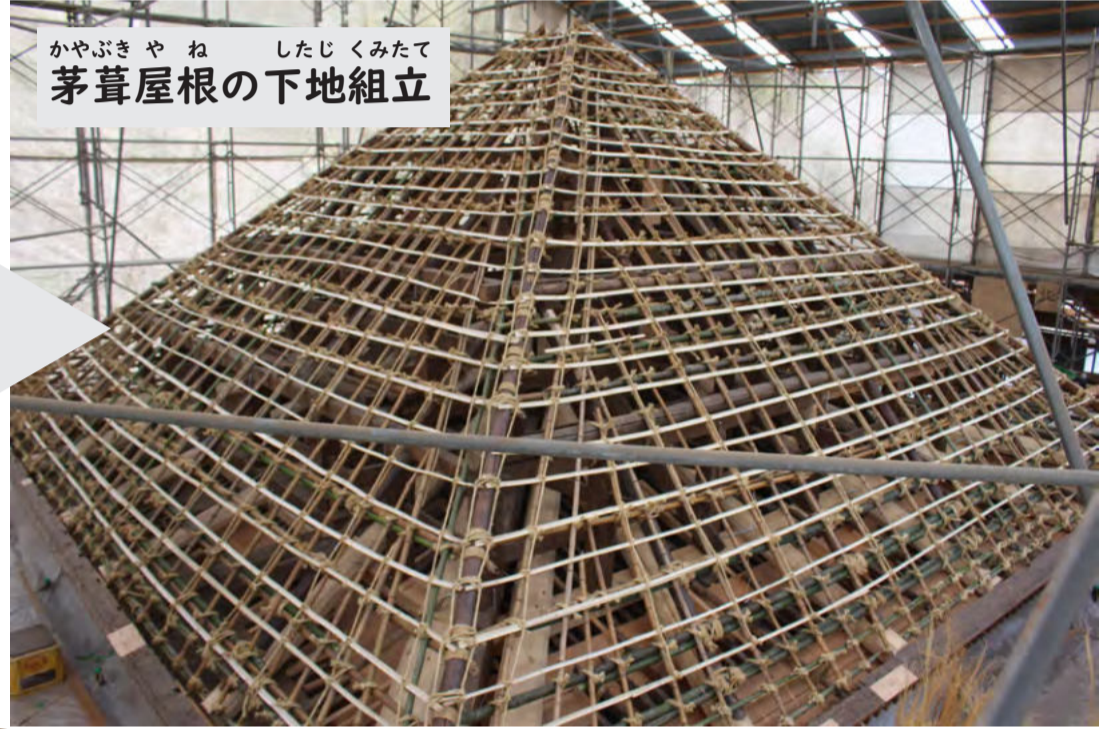


3月2週目

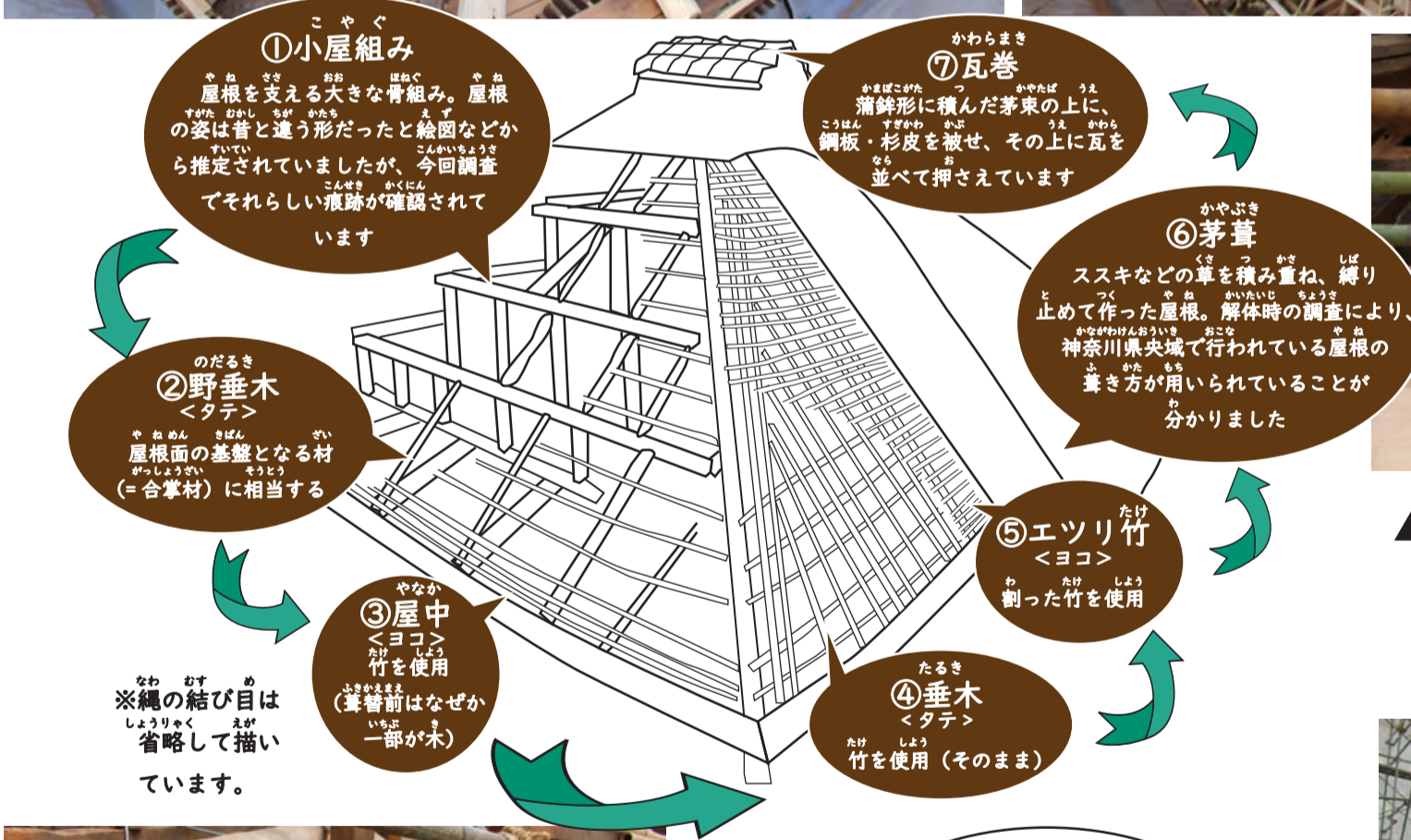
令和2年度より半解体修理を始めた旧東慶寺仏殿では、大工さんによる屋根の骨組みの組み立てが済み、続いて新しい茅葺屋根を葺く作業に入るため次は屋根葺き職人さんにバトンタッチ。木と竹を籠状に組み上げて下地を作り、その上にススキの束を重ねて屋根を作り上げていきます。茅葺屋根は地域ごとの特色があるため、2年前に古い屋根を解体する際に作り方をしっかり調べました。今回その調査をもとにして、昔と同じやり方で、使える古い材料は再利用しながら組み立てています。



大工による屋根骨組み



茅葺屋根の下地組立



▲再利用できる材料(茶色)は解体前の番付に則って元の場所に、足りない分は新材(緑色)で補う。



▲独特な構造材「尺八」。屋根から下と上、茅葺屋根と建物を結びつける要となります。

下地に竹を多用しているのも関東風。茅葺屋根は地元で入手しやすい材料を多用することが一般的です。



▲解体前の屋根で確認された独特な縄の結び方を、同じように再現して施工しています。